

令和6年度鳥取県環境審議会（第4回）における質疑応答の概要

1 (答申事項) 鳥取県廃棄物処理計画の策定について

(小野寺委員)

(資料 18 ページ) 一般廃棄物の現状について、(鳥取県は1人1日当たり一般廃棄物の)排出量自体は全国平均を上回っているが、その一方で(資料 21 ページ)リサイクル率は逆に全国を上回ってトップ。リサイクル率は高いけれど排出量が多いというはどういうことなのか。

(後藤田課長)

一般廃棄物の1人当たりの排出量が比較的多い理由は、鳥取県では紙ごみ等の集計についてより詳細に実施しており、事業者が実施した古紙回収などの数値も計上した上で計算しているため、他県よりも多くなっているものと分析している。

一方、紙ごみはリサイクル率が高いので、その比率が高くなったり市町村や県民の皆様の(リサイクルの)取組みが進んでいたこと等により、リサイクル率が高くなっていると分析している。

(小野寺委員)

(一般廃棄物の排出量が)最初のページの方(に掲載されていること)で、悪い印象を与えてしまったと思ったが、リサイクル率が非常に高く全国でもトップという点も含めて、もう少しアピールしてもいいのかなと思った。

(神谷委員)

S D G s の関係について、(資料 15 ページに)「本計画が対象とする S D G s のゴールとターゲット」として掲載されているが、(記載の項目を)どういった基準で誰が目標・ターゲットに選定したのか。

(後藤田課長)

廃棄物処理計画の内容が S D G s のターゲットと関係しているものについて、県で判断をして掲載したもの。